

日本港湾協会定時総会にて、京都大学防災研究所沿岸災害研究分野の間瀬肇教授、安田誠宏助教、森信人准教授、辻尾大樹氏（元社会人博士学生、現パシフィックコンサルタンツ株式会社）による「防波堤の性能設計高度化と気候変動影響評価」の一連の論文が、平成26年度日本港湾協会論文賞を受賞しました。この賞は、公益社団法人日本港湾協会が、港湾の整備及び海岸保全に関する優れた論文を発表、又は計画、設計、施工に関して顕著な功績をおさめた個人又は団体に対して顕彰するものです。

本研究は、港湾の第一線に位置するケーソン混成堤および消波ブロック被覆堤を対象として、変形量を考慮した防波堤の性能設計法を確立すべく、滑動量解析手法を高度化するとともに、設計供用期間中の期待補修費も考慮してLCCが最小となる最適断面を決定する最適設計手法を提案したものです。特に消波ブロック被災後の防波堤に関して新たな滑動量算定手法を提案し、滑動量に及ぼす諸要因の影響を評価しました。さらに、地球温暖化による将来の外力変化を考慮した最適設計手法を提案し、今後の環境変化を想定した構造物の最適断面の決定手法を示しました。

